

# 北海道浮魚ニュース

平成 23(2011)年度 18 号

2011 年 9 月 26 日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## ◎平成 23 年度オホーツク海サンマ漁況見通し

北海道立総合研究機構水産研究本部釧路水産試験場・網走水産試験場・稚内水産試験場および独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所・北海道区水産研究所が協議を行い、9月22日に「2011年(H23年)オホーツク海沿岸におけるサンマ漁況の見通し」を発表しましたので、内容を要約してお知らせします。

### 【漁況見通し】

- ① 来遊量 : 来遊量は昨年よりも多い
- ② 来遊時期 : 北海道沿岸域への来遊は 10 月中旬以降

### 1. オホーツク海で漁獲されるサンマの回遊 (予備知識)

例年オホーツク海で漁獲対象となる魚群は中型・小型魚が主体で、この群は7月から8月に南千島太平洋側から移入するものと考えられています。

従って、7月から8月に太平洋海域に分布する中型・小型魚の分布量が多いことが前提条件となり、さらに南千島海域の表面水温が10℃以上であれば、オホーツク海への来遊資源量は多くなると考えられます。オホーツク海に回遊したサンマは、8~9月にはオホーツク海の中南部海域に広く分布します。9月以降には海水温の低下にともない、宗谷暖流域の比較的水温の高い(10℃以上)北海道沿岸域へと移動し、漁場が形成されます。

### 2. 来遊資源量

・6~8月の太平洋における中型・小型魚の分布量

東北区水産研究所が今年の漁期前(6~7月)に実施した中層トロール調査結果では、東経162度以西では大型魚と小型魚が主体で、中型・小型魚の資源尾数は、昨年(5.5億尾)よりも少なく(0.2億尾)、これより東方では大型魚が多い。太平洋全体の資源尾数は昨年よりも多く(昨年の2.2倍)、大型魚が主体で中型・小型魚・ジャミ混じりでした。

また、今年7~8月の太平洋海域(主に東経150度以西)におけるサンマ棒受け網の漁獲物は大型魚が主体で、中型・小型魚の漁獲尾数は0.40億尾と推定され、昨年(0.40億尾)と同じ値でした。(図2)。このうち中型魚が84%(昨年:12%)、小型魚が16%(同:88%)であり昨年に比べ中型魚の割合が非常に高い値を示しました。

※魚体説明: 特大魚(体長32cm以上)、大型魚(29-31cm台)、中型魚(24-28cm台)、小型魚(20-23cm台)、ジャミ(20cm未満)

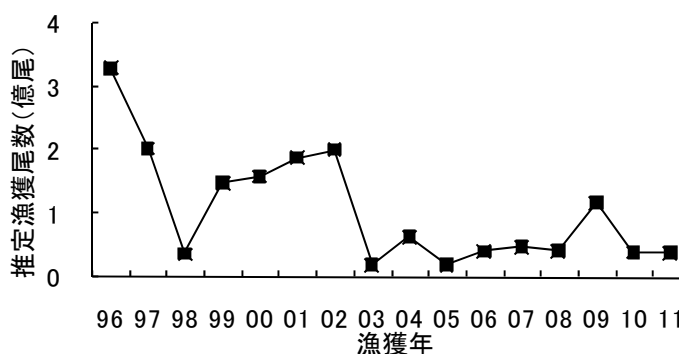


図1 太平洋海域における中型・小型サンマの推定漁獲尾数(8月下旬まで)

### ・オホーツク海へ回遊する海況条件

7～8月の南千島海域における表面水温が高い（10℃以上）年には、サンマがオホーツク海へ回遊する条件が良好であると考えられています。今年の7月中旬から8月下旬の南千島海域は、7月中旬は10℃以上の水に覆われた海域の割合が6割程度でしたが、7月下旬以降は全域が10℃以上の水に覆われていました。従って、今年の太平洋からオホーツク海へ回遊する海況条件は良好であったと考えられます。

### 3. 北海道沿岸域への来遊時期

紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の間には、週間平均表面水温の年最高値が17℃以上の年に限れば、水温が高い年ほど初漁日が遅くなる傾向が見られます(図2)。

今年9月中旬までの週間平均表面水温の最高値は、8月第5週の18.9℃でした(図2)。これは昨年よりも0.9℃低い値を示していました。また、この水温を過去の初漁日と水温の関係に照らし合わせると、初漁日は10月中旬以降と考えられます。

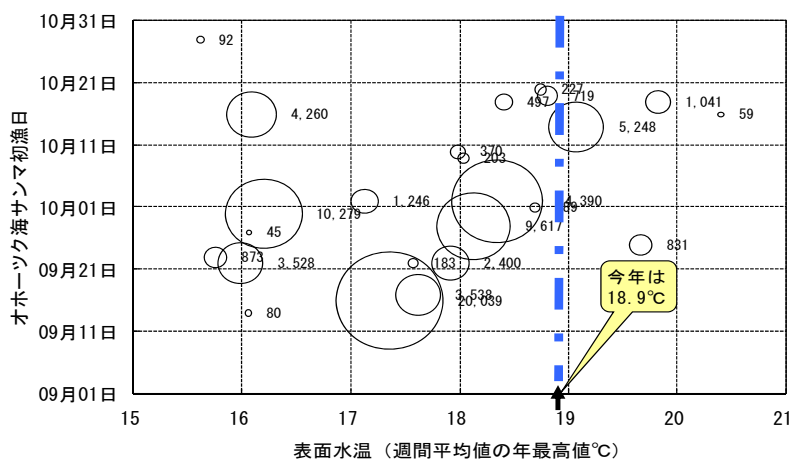


図2 紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の関係  
表面水温は北緯44度～45度、東経143度～144度の海域  
図中の数字は漁獲量(トン)を示す  
「○」が大きい程漁獲量が多い

**従って、サンマの中型・小型魚の資源量は、太平洋全体では昨年よりも多いものの、日本近海の太平洋海域では少なく、その漁獲尾数は0.40億尾と昨年と同程度の低い値でした。しかし、中型魚の割合が昨年よりも非常に高いことから、分布重量は多いと考えられます。また、今年オホーツク海へ来遊する海況条件は良好です。よって、北海道オホーツク海沿岸へのサンマ来遊量は昨年よりも多く、その来遊時期は10月中旬以降と考えられます。**

### 4. その他

オホーツク海で操業する棒受け網船の多くは太平洋から回航してくるため、オホーツク海における漁獲量は、来遊資源量が十分ならば、この回航隻数と操業期間、すなわち延べ操業隻数に左右されます。また、9月中旬・下旬の道東太平洋の漁況が良好である年はそこで操業を続けるため、オホーツク海への回航隻数は少なくなる傾向にあります。このため、この時期の道東太平洋の漁況がオホーツク海の漁獲量を決定する要因の一つになっています。今年の道東太平洋海域の漁況は道東沖合での漁場形成が遅れており、この状態が続けば、オホーツク海へ回航する漁船が多くなると考えられます。

(文責：釧路水産試験場調査研究部，TEL:0154-23-6222，FAX:0154-23-6225)